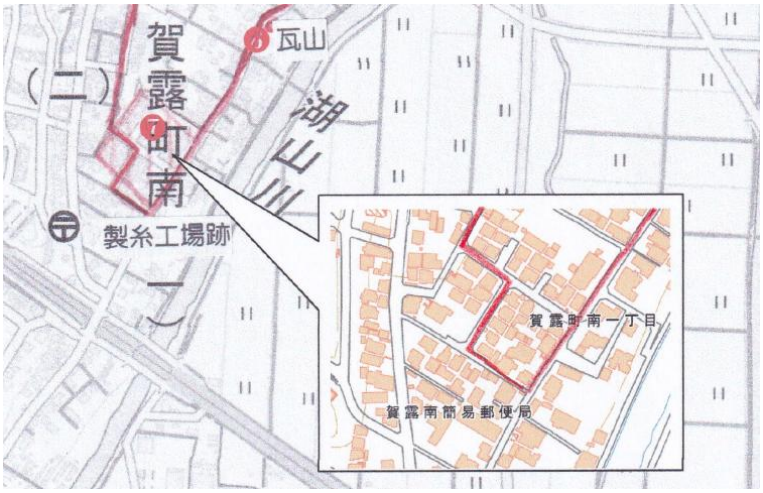
製糸工場跡



第 29 回賀露町健康ウォーク コースマップ　より

戦前、賀露町一区にあった石原製糸工場には 200 名くらいの従業員が働いていました。戦時中工場は閉鎖され、終戦後も復活されることはありませんでした。昭和 23(1948)年頃ソーメン工場となりましたが、2 年ほどで倒産。昭和 31(1956)年頃には缶詰工場ができましたが、昭和 52(1977)年頃労働争議により工場閉鎖となり、玉川商店に引き継がれ、現在では住宅地になっています。

一区　大谷みさえさん（昭和２年生まれ）の話

創立された時期は分らないが学校を卒業した当時（昭和 16 年）、以前からあった一区の石原製糸工場には、従業員数約 200 名くらいはいたと記憶している。私も、その工場で本職につく間、1 年間勤務した経験がある。

その工場には糸取りといって、繭から糸（シルク）にする工程の場があり、大きな工場の中に 4 列の長い列で、たくさんの人たちが持ち場持ち場の糸づくりに一生懸命。現在は機械により、人間の手は借りなくとも立派な糸になり、布となって製品化されている。

当時賀露には、そんな大きな工場は 1 ヵ所しかなかったから、地元はもとより他村からもたくさんの人たちが働きに来ていた。そんな人たちのために寄宿舎があり、そこで寝起きして働いていた。でも、その工場も絹糸など贅沢品だとして、戦時中に工場は閉鎖された。それ以後、終戦となっても復活されることはなかった。

（平成 13 年公民館編集製本「昔の思い出」　賀露誌 P104）

一区　宮脇さつ江さん（大正 10 年生まれ）の話

私の家の北隣方向に、広大な製糸工場があった。私が賀露町 17 の 3 の 37 番地の宮脇に嫁いで来たのが、昭和 20 年。その時には既に工場は閉鎖されていたが、両親から聞いた話では社長は石原多十郎さんという人で、隆盛時には女工さんが 200 名以上で、「繭」から絹糸をつくる工場で、宿舎も整備され、盛況を極めていた。

この工場の変遷を辿るのも、賀露の歴史の一端を知る上で、何かの参考になるのではないかと思い、筆を執ることにしたが、何しろ古い話で、記憶をたどりながら書いた。間違いもあることと思うがご容赦を。

さて、製糸工場の後は、昭和 23 年から 24 年ごろ、佐治村の田中某氏の経営するソーメン工場となったが、二年程で倒産し、代わって福井県から来た某氏が、昭和 31 年ごろから、缶詰工場をはじめた。主に、蟹、イワシ、桃、梨の缶詰を製造し、従業員も 200 名程だったが、昭和 52 年ごろ、労働組合のストライキにより、15 年間も続いた経営も工場閉鎖のやむなきに至り、経営者も福井県に引き揚げたと聞いている。

その後、玉川商店に引き継がれたが、工場も取り壊され、現在では住宅地となり、17、8 軒の家が建っている。思い出せば、50 年余りの間に数回に及ぶ変遷の後、現在のようなことになった。

（平成 13 年公民館編集製本「昔の思い出」　賀露誌 P107）

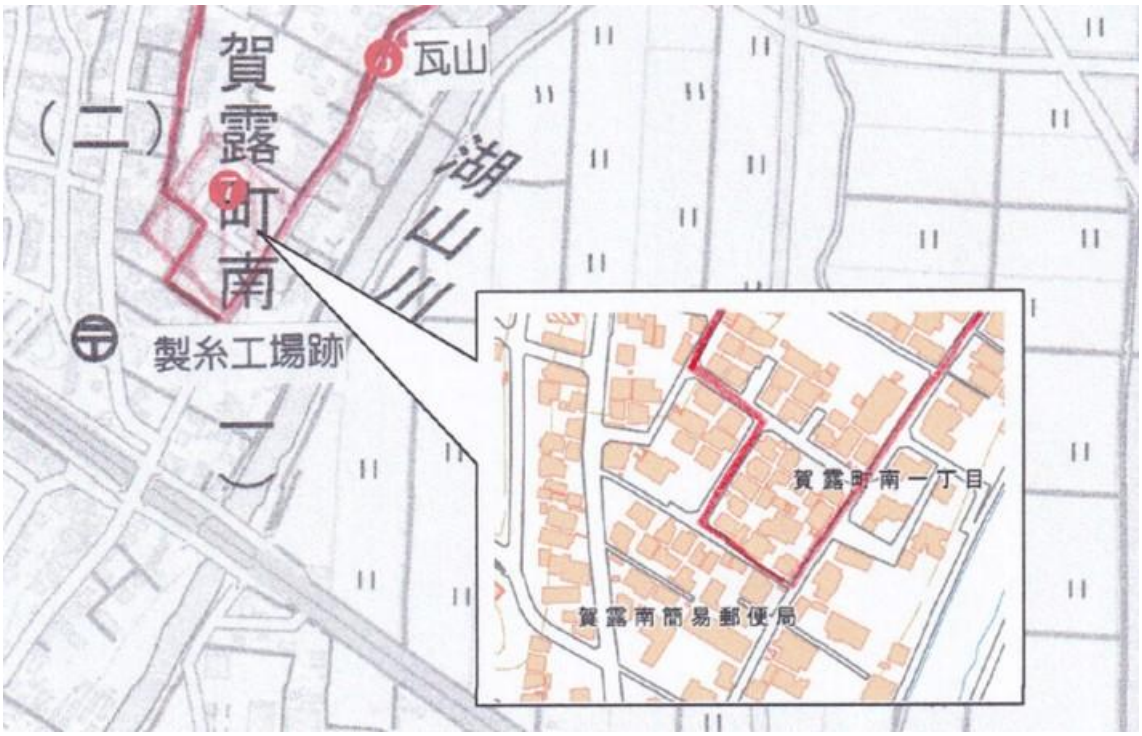
出典

賀露地区健康づくり推進員会　健康ウォーク 2022

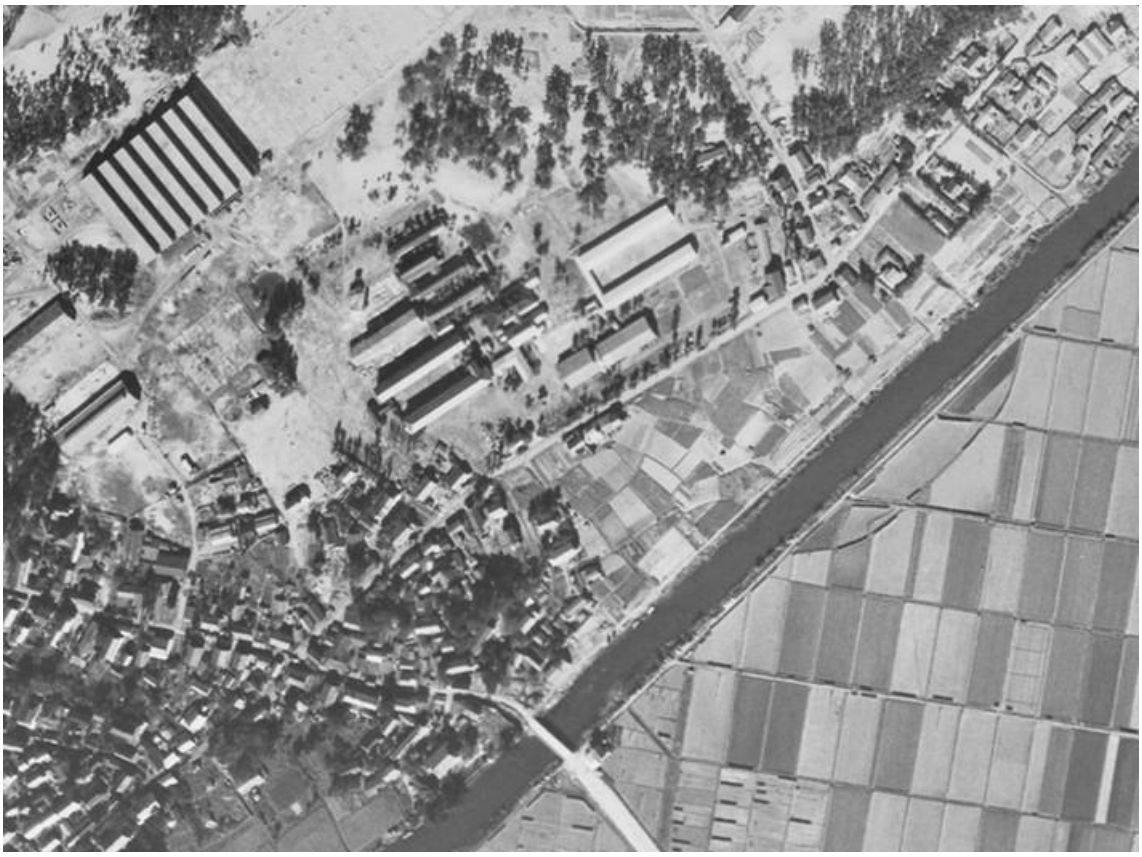
平成 13 年公民館編集製本「昔の思い出」

賀露町自治会（2009）「賀露誌」

（資料）地理空間情報ライブラリー・空中写真と平成 13 年公民館編集製本「昔の思い出」



USA-R507-4-17_撮影 1947 09 23(昭 22)米軍
昭和 20 年には、工場は閉鎖されていた（昔の思い出）



USA-M184-2-74_撮影 19521102(昭 27)
昭和 23 年から 24 年ごろソーメン工場となったが二年程で倒産（昔の思い出）

CG611YZ-C4C-187_撮影 19610228(昭 36)
昭和 31 年ごろから缶詰工場（昔の思い出）

CG811-C3-12_撮影 19810730(昭 56)

昭和 52 年ごろ玉川商店に引き継がれた（昔の思い出）

グーグルマップ　2025